

○地域公共交通シンポジウム in 弘前～みんなで考える地域の足～（東北運輸局）

東北運輸局では、11月20日（水）に弘前市内において、「地域公共交通シンポジウム in 弘前～みんなで考える地域の足～」を開催しました。

当シンポジウムは、地域の足として利用しやすい地域公共交通のあり方や関係者の役割を、皆様と一緒に考える機会として開催したもので、当日は自治体、交通事業者、学生など、約100名もの皆様にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。

シンポジウムの模様については以下のとおりです。

【国の施策説明】



「今後の地域公共交通に対する取組みについて」

国土交通省東北運輸局企画観光部交通企画課長 柳井 和則

・地域公共交通を取り巻く状況、地域公共交通の活性化に向けた国の支援制度、各地域における取組み等について報告。

【基調講演】



「コミュニティバス計画の要点」

岩手県立大学 総合政策部 元田 良孝 教授

・「コミュニティバスの背景」「よくある誤解」「いくつかの話題」の内容でコミュニティバス計画の要点について説明。

・少子高齢化や生活の満足度と交通の満足度から、コミュニティバス導入の背景となる事情を説明。

・「不便な町だからコミュニティバスを」「地元が利用するから走らせる」「循環にしなければならぬ」等コミュニティバスに対して誤解しがちなことについて例を挙げて解説

・各自治体の成功例を紹介し、役所主体ではなく住民参加の必要性を追求。そこから、コミュニティバスを導入する目的の明確化、調査に基づく身の丈にあった計画が大事である。

【事例発表】



「官民一体となったバス事業の取組みについて～当別町コミュニティバス運行事業～」

北海道石狩郡当別町 企画部長 増輪 肇

・当別ふれあいバス誕生と現在までの経緯について具体的なデータを交えて紹介。

・コミュニティバスの認知度アップを図り、更に浸透させるため『ノンステップバスの導入』等ハード面だけでなく、『環境教育の実施』等ソフト面からの様々な取組みが重要。

・住民から提供される天ぷら油より精製される BDF を使用した究極の循環型コミュニティバスを目指す。

【トークセッション】

「みんなで考える地域の足」

コーディネーター：吉田昭二省東北運輸局企画観光部長

パネリスト：元田教授、増輪部長、青森市交通政策課長 石郷昭規、

弘前市都市政策課長鎌田雅人、大鰐町企画観光課長 前田克則、弘南バス取締役部長 福地順、

弘前大学 H・O・TManagers 代表 大野悠貴

- ・前半は青森県内各自治体及び弘南バスに現状と取組を発表してもらい、増輪部長・大野代表・元田教授にそれに対しての意見を発表してもらった。
- ・後半はその意見を踏まえた上で各自治体に将来の展望を発表してもらい、最後は元田教授に総括をしてもらうという流れで行った。



○青森市 石郷課長

・PTA や社会福祉協議会等を巻き込んだ、従前の町会より規模の大きい新しいコミュニティを作成予定であり、そこで住民が自発的に公共交通について考えられるよう支援していきたい。

○弘前市 鎌田課長

・交通モードの適切な分担が必要。バスだけでなくタクシーの活用を住民に浸透させていく。

○大鰐町 前田課長

・行政はより一層の利用増進策と効率的な運用を考え、住民はより一層の利用することで官民一体で公共交通を守っていきたい

○弘南バス 福地部長

・地域公共交通を存続・維持・活性化していくには、自治体や商工会議所等各種団体との協働連携が必要となってくる



○当別町 増輪部長

・行政側がどれだけ真剣になれるかということ。経験から言うと、行政の職員が一つの事業を生き生きと行えば必ず住民はついてくる。

○弘前大学 H・O・TManagers 大野代表

・住民が今からできることは、公共交通機関を利用すること。それは交通の問題というよりも街に住むというレベルの問題。街に住むという行動の中の問題として、移動するということに向き合える環境作りをこれから行っていきたい。

○岩手県立大学 元田教授

・様々な自治体を見てきたが、一つとして同じ自治体は無い。それだけあれば解決するという魔法の薬は無い。地域を知っている人間が、データに基づいた合理的な議論で改善策を見いだしていく、こういうことを続けていけば必ずと解が得られるのではないだろうか。

終了後のアンケートでは、大変多くの参加者の皆様から「満足した」との回答をいただきました。東北運輸局では、今後とも地域公共交通の課題に取り組む方々を積極的にサポートし、セミナーの開催等によって、自治体、交通事業者等の皆様と一緒に地域公共交通のあり方について考えて参ります。